

1

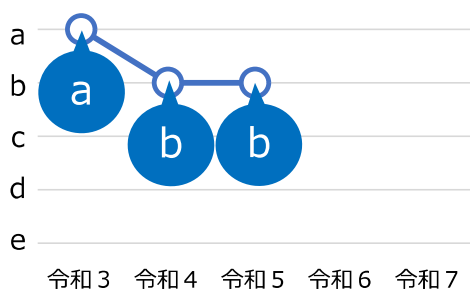
環境

< 政策分野の基本方針 >

豊かな地球環境を未来へ引き継ぐために、地球温暖化対策、生物多様性保全、ごみ減量等の課題に対し市民、事業者、地域団体、行政等のオール京都で、これまでの延長にとどまらない取組を実践し、2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」等の目標達成に向け、さまざまな政策分野において、自然との共生を楽しむ環境と調和した持続可能な社会の実現をめざす。

客観指標評価

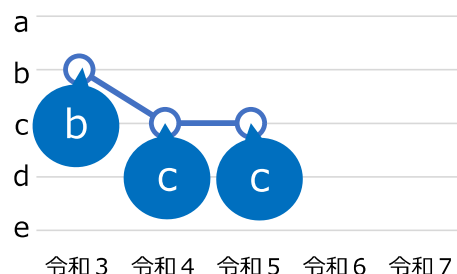
政策の客観指標である「温室効果ガス排出量削減率」については、主に産業部門及び業務部門のエネルギー消費量が増加したこと等により伸び悩み、c評価となった。一方で、「ごみ焼却量の削減量」については、ごみ量が着実に減少しており、全体ではb評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

「マイバッグの利用やごみの分別・リサイクルの徹底など、ごみの出ない暮らしと事業活動が広がっている。」という生活実感はb評価と概ね肯定的に評価されているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、良好な自然環境が保たれているという実感や美化活動等の環境に配慮した行動を実践できている実感を得にくかったこと等から、全体ではc評価となったと考えられる。



(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」等の目標達成を目指しており、効果測定に客観指標の数値が直結するため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価がb評価となり、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。温室効果ガス排出量については、京都市地球温暖化対策計画に基づき、ライフスタイル、ビジネス、エネルギー、モビリティの4つの分野の転換や、森林・農地等の二酸化炭素の吸収源対策の強化等を図ることで、2050年「正味ゼロ」を目指す。また、ごみ焼却量については、引き続き、京都市循環型社会推進基本計画に基づき、市民・事業者の皆様と共に2R及び分別リサイクルの推進等に取り組むことで、更なる削減を進める。これらにより、基本方針にある環境と調和した持続可能な社会の実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	温室効果ガス排出量削減率（％）	22.3	-	d	c	-	-
2	ごみ焼却量の削減量（万トン）	3.9	a	a	a	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	b	b	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	b	b	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	b	b	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	環境に配慮した行動を実践する社会になってきている。		b	c	c	-	-
2	様々な生き物が生息する良好な自然環境が保たれている。		b	c	c	-	-
3	マイバッグの利用やごみの分別・リサイクルの徹底など、ごみの出ないくらしと事業活動が広がっている。		b	b	b	-	-
4	暮らしの中で、環境について学び、実践する人が世代を問わず増えてきている。		c	c	c	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			b	c	c	-	-

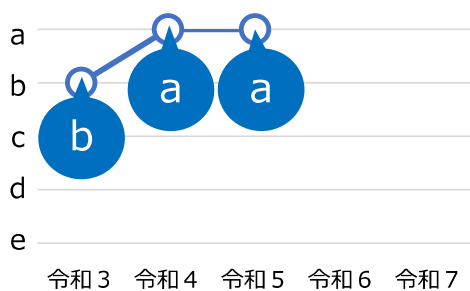
政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	6	5	6	-	-

< 政策分野の基本方針 >

少子化、国際化、情報化、経済・雇用環境の変化などが進むなか、多様な考え方や生き方が迎え入れられ、個性と能力を十分に発揮でき、日々の交流のなかから一人一人が尊重され、より豊かな人間関係が育まれる誰一人取り残さない共生社会をめざす。

客観指標評価

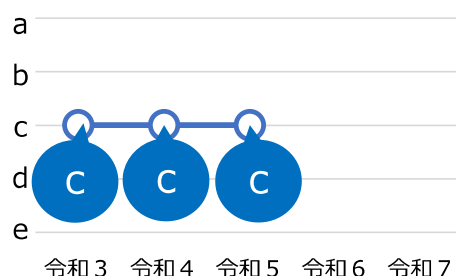
政策の指標である「男女いずれの委員の登用率も35%以上の附属機関等の割合」が高評価となったほか、施策の指標である「市民の自主的な啓発活動を支援する事業の利用件数」が着実に増加したことなどから、全体ではa評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

長時間労働や固定的な性別役割分担意識が根強く残っていること、DV被害者支援の取組は進んでいるものの、男女間等における暴力が根絶されているという実感には至っていないことなどから、c評価になったと考えられる。

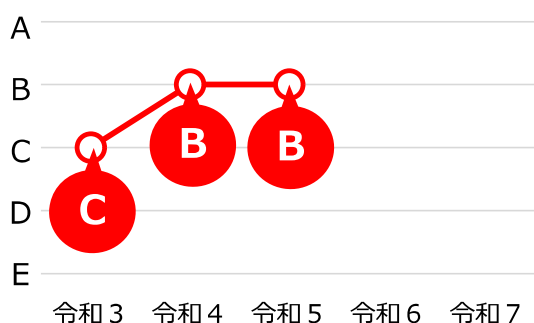


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

人権、男女共同参画、真のワーク・ライフ・バランスなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。引き続き、様々な広報媒体を活用して人権啓発に取り組み、全ての人の人権を尊重する人権文化の構築を着実に推進していく。また、「真のワーク・ライフ・バランス」の推進のために企業啓発等を行うとともに、男女間等におけるあらゆる暴力を根絶するため、市民啓発やきめ細やかで切れ目のない相談・支援を行い、誰もがあらゆる分野で活躍でき、安心・安全に暮らせる男女共同参画社会の実現に向けて取り組む。これらにより、基本方針にある誰一人取り残さない共生社会の実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	京都人権擁護委員協議会における人権相談取扱件数（件）	2,167	e	c	b	-	-
2	男女いずれの委員の登用率も35%以上の附属機関等の割合（%）	70.2	-	a	a	-	-
3	京都市DV相談支援センターにおける「課題解決」の割合（%）	61.5	b	b	b	-	-
4	「京都モデル」ワーク・ライフ・バランス推進企業認証制度の認証企業数（社）	413	a	a	b	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			b	a	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			b	b	b	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			b	a	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	一人一人が互いを認め合い、多様な考え方や生き方を迎え入れて交流している。		c	c	c	-	-
2	様々な人に、いきいきと活動して自分の能力を発揮する場所や、自分に合った働き方を見つける機会がある。		c	c	c	-	-
3	男女間等における暴力や性的いやがらせが根絶された社会になってきている。		d	d	d	-	-
4	仕事と生活（家庭や地域活動など）をバランスよく充実できる社会になってきている。		c	c	c	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			C	C	C	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	24	21	23	-	-

3

市民生活とコミュニティ

< 政策分野の基本方針 >

自治会・町内会などの地域団体をはじめ、地域企業、市民活動団体等が地域のさまざまな課題に対して、連携して解決に取り組むとともに、地域におけるさまざまな居場所や活躍の場づくりなどを進め、これを行政が支えることで、多様な地域コミュニティの活性化に向けたまちづくりを進める。

客観指標評価

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域で実施する様々な活動が中止・延期となったことに加え、「京都市 自治会・町内会&NPOおうえんポータルサイト」について、令和4年10月にURL変更を伴うリニューアルをしたことで施策の指標であるアクセス件数が減少したと考えられ、d 評価となった。

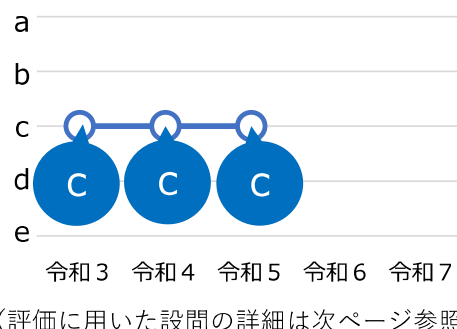
※政策の指標は、3年ごとに実施する自治会・町内会アンケート（直近では令和3年度）を用いており、令和4年度は調査年度ではないため評価できず、施策のみでの評価となっている。



（評価に用いた指標の詳細は次ページ参照）

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域で実施する様々な活動が中止・延期となり、市民の実感が得られにくかったため、c 評価となったと考えられる。

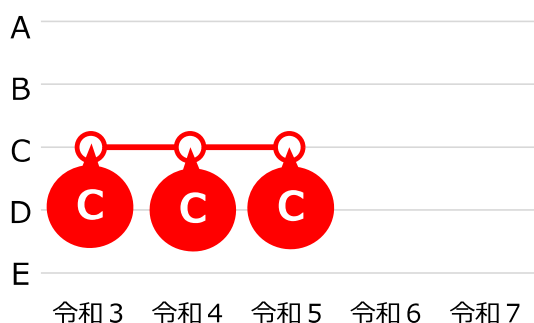


（評価に用いた設問の詳細は次ページ参照）

< 評価の重み付け >

地域活動への参加のきっかけ・しくみづくりや、コミュニティの活性化支援など、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はd 評価となり、市民生活実感評価がc 評価となったことから、総合評価結果はC 評価となった。

誰もが「地域の一員」として安心して快適に暮らせるまちづくりを進めていくため、令和3年度に策定した「地域コミュニティ活性化ビジョン」に基づき、「一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくり」や、「多様な地域の特性に即した地域活動の推進」、「多様な主体の連携・協働の促進」を進めていく。

これらにより、基本方針にある多様な地域コミュニティの活性化を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	地域コミュニティが活性化していると回答した自治会・町内会の割合（％）	-	-	-	-	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			d	-	-	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			b	c	d	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			c	c	d	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	近所で日頃からあいさつが行われるなど、人と人とがつながり、安心して暮らせる地域になっている。	c	c	c	-	-
2	自治会・町内会等が、防災、防犯、見守り活動、町内美化等、地域のための取組を行っている。	b	c	c	-	-
3	地域活動に、NPOやボランティア、大学、企業などの様々な団体が関わり、協力している。	c	c	c	-	-
4	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		C	C	C	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	25	25	25	-	-

< 政策分野の基本方針 >

京都がもつ地域力を生かし、地域住民をはじめあらゆる関係機関と一層連携を深めながら、犯罪、交通事故、消費者被害・契約トラブルを予防し、被害拡大防止のために対応するとともに、被害に遭わないようよりよい防犯環境・交通安全環境を構築する。また、市民が地域における防犯活動・交通安全運動などの活動に積極的に参加し、取組の輪を大きくすることができるよう施策を展開することで、すべての人が安心して安全にくらせるよりよい地域共生社会を実現する。

客観指標評価

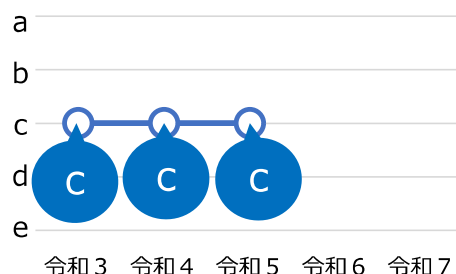
「消費生活相談件数に占める助言・あっせん解決率」は過去5年間の平均値に届かなかったが、市民・行政・警察等が一体となった防犯や交通安全の取組の展開による刑法犯認知件数や交通事故死傷者数の減少、年齢層に応じた様々な消費者教育・啓発を実施したことによる市民の関心・理解の向上などから、a評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

犯罪や事故に関するニュースが日常的に報道されており、犯罪や事故が身近に起こりうるという感覚があること、デジタル化の加速度的進展等による契約形態の複雑化・多様化に伴い、一部の消費者に不安が生じていることなどから、c評価になったと考えられる。

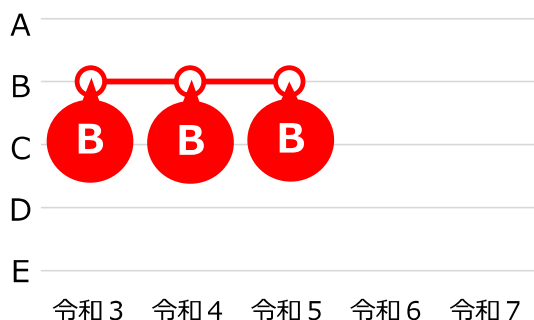


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民が安全を実感した「体感治安」の現れや消費者である市民の自立意識の広がりなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったため、総合評価結果はB評価となった。

引き続き、犯罪の減少が市民の体感治安の向上に繋がっていない状況を踏まえ、令和3年度に策定した第3次京都市生活安全基本計画に基づき、「見せる防犯」の普及促進等の様々な取組を展開する。

また、第3次京都市消費生活基本計画に基づき、複雑化・多様化する消費者トラブルについて、被害の救済と未然防止に向けて、様々な媒体を用いた注意喚起や啓発活動等に取り組む。これらにより、すべての人が安心して安全に暮らせるよりよい地域共生社会の実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	犯罪発生(刑法犯)認知件数（件）	7,032	-	a	a	-	-
2	消費生活相談件数に占める助言・あっせん解決率（%）	99.41	d	b	d	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			b	a	b	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	a	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	a	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市民・事業者等により、地域の防犯・交通安全活動が盛んに行われている。		C	C	C	-	-
2	地域のつながり・交流が深まり、犯罪等の心配が少なく、安心して安全にらせるまちとなっている。		C	C	C	-	-
3	悪質商法などによる消費者被害を防止し、被害者を救済するしくみが充実している。		C	C	C	-	-
4	消費生活に関する情報や知識を備え、みずから考え行動する消費者が増えている。		C	C	C	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			C	C	C	-	-

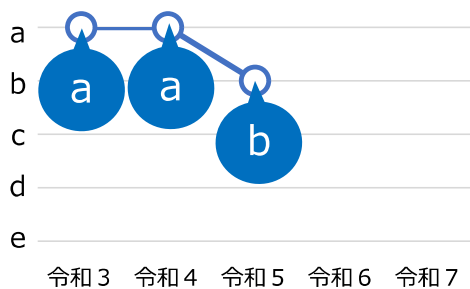
政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	5	2	2	-	-

< 政策分野の基本方針 >

市民の生活に息づくくらしの文化や、伝統文化から現代芸術まで幅広い文化、有形無形の文化遺産をはじめとする多様な文化を、新しい生活スタイルに合わせて維持、継承、活用しつつ、創造的に発展させていくため、持続可能な文化施策を展開する。また、文化とあらゆる政策の融合を推進し、そこから生まれる新たな価値が相乗効果を生み、文化芸術が経済や社会の発展を牽引する「地方創生のモデル都市」となるとともに、新・文化庁と連携し、日本の文化GDPの拡大や「文化芸術立国」に貢献する。

客観指標評価

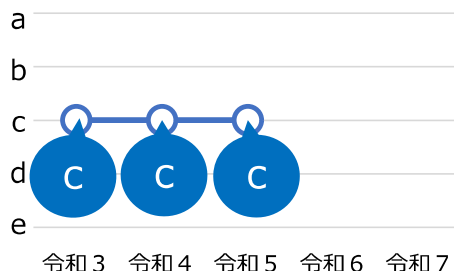
新型コロナウイルス感染症による制限が緩和傾向にあったことで、政策の指標である「文化施設の年間入場者数」や施策の指標である「京都コンサートホール等の日数利用率」は改善したが、政策・施策の指標である「本市が指定、登録等をした京都文化遺産の数」が例年より少なかったことや、施策の指標である「Social Work / Art Conferenceホームページの閲覧数」が目標値に届かなかったことなどから、全体としてb評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

「有形無形の京都文化遺産が日常生活の中で生かされ、大切に守り伝えられている。」という生活実感はb評価であったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術活動が活発に行われたり、社会や経済が活気づいているような実感までは得にくかったことから、全体としてはc評価となったと考えられる。

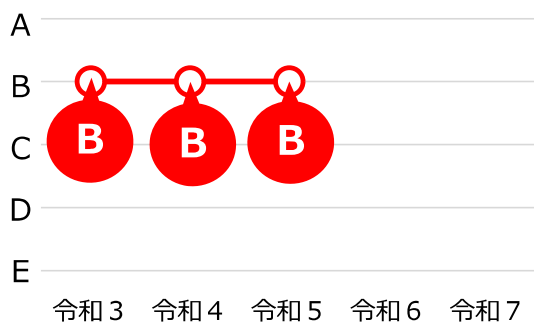


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

文化の発信や文化遺産の継承、文化芸術活動のしくみの構築などの施策の進捗や効果が市民実感に繋がりにくいことから、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はb評価、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。

引き続き、文化芸術活動への支援をはじめ、各種事業による文化芸術に触れる機会の創出等に取り組み、文化を基軸としたまちづくりを推進していく。

また、令和5年は、文化庁の京都への全面的移転や京都芸大の京都駅東部への移転等、本市の文化芸術振興の機運が高まる年となる。この機会を活かし、引き続き「文化芸術都市創生計画」に基づいた取組を推進し、「世界の文化首都・京都」への更なる飛躍を目指す。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	文化施設の年間入場者数（人）	3,416,715	-	a	a	-	-
2	本市が指定、登録等をした京都文化遺産の数（件）	33	a	c	d	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	b	b	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	a	b	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	a	b	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	日々の暮らしに文化がとけ込み、市民が文化に触れることが出来ている。		c	c	c	-	-
2	文化芸術活動によって、社会や経済が活気づいている。		c	c	c	-	-
3	海外との文化交流が進み、相互理解が深まっている。		c	c	c	-	-
4	有形無形の京都文化遺産が日常生活の中で生かされ、大切に守り伝えられている。		b	b	b	-	-
5	文化芸術に携わる人や応援する人が育ち、文化芸術活動が活発に行われている。		c	c	c	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			c	c	c	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	21	17	15	-	-

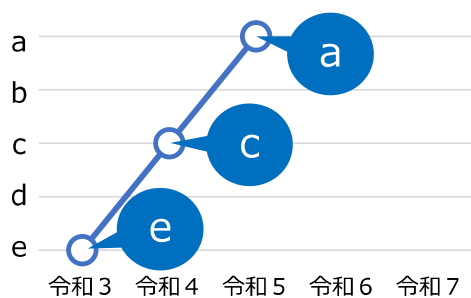
< 政策分野の基本方針 >

「誰もが、いつでも、どこでも、する・みる・支える、さまざまなかたちでスポーツやレクリエーションに親しみ、その環境をみんなで支え合うまちづくり」を市民、関係団体等と行政とが一体となって進める。人生100年時代を見据え、市民一人一人がスポーツを楽しむことで、健康や心の豊かさを享受するとともに、多様な仲間とつながる取組を推進する。スポーツと文化、産業、観光、環境、教育などがつながることで、京都のまちをさまざまな分野からより魅力あるものにする。

客観指標評価

新型コロナウイルス感染症対策の推進により、市民のスポーツ活動が徐々に再開されスポーツに触れる機会が増えたことから、a評価となった。

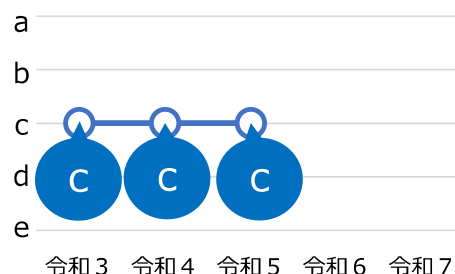
中でも市内でスポーツを観戦した割合、ボランティアとして参加した割合が大きく伸びており、3年ぶりの開催となった京都マラソン2023の効果が大いと考えられる。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

スポーツ活動が徐々に再開されてきたものの、コロナ禍以前の状況までには戻っておらず、全体としての評価も伸び悩み、c評価となったと考えられる。

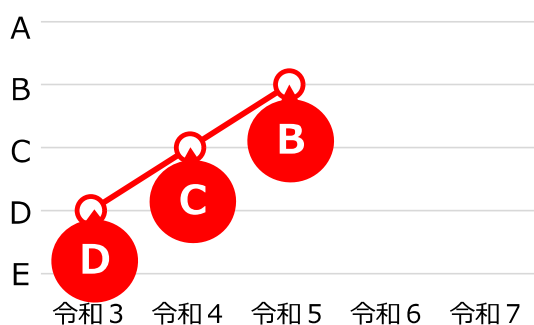


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民がスポーツを楽しむことができ、多様な人がつながり、まちの魅力が向上するなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価がa評価、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。

新型コロナウイルス感染症の位置づけも5類感染症に移行し、スポーツ活動が本格的に再開する中で、体育振興会をはじめ、スポーツ関係団体等との連携を一層深め、市民のスポーツ活動の活性化、さらにはスポーツを通じた健康で心豊かなくらしや様々な人と人とのつながりの実現、まちの魅力の向上を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。

※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	週1回以上運動やスポーツをする市民の割合（％）	60.0	-	-	b	-	-
2	市内で直接スポーツを観戦した市民の割合（％）	23.4	-	-	b	-	-
3	スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合（％）	5.2	-	-	b	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			d	-	b	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			e	c	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			e	c	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市民がスポーツを楽しみ、健康で心豊かにくらしている。		c	c	c	-	-
2	市民がスポーツを楽しんだり、スポーツを支える活動を通じて、様々な人と人がつながっている。		c	c	c	-	-
3	市民がスポーツに身近に触れる機会があり、スポーツがまちの魅力を高めている。		d	c	c	-	-
4	-		-	-	-	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			C	C	C	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
			27	27	27	-	-

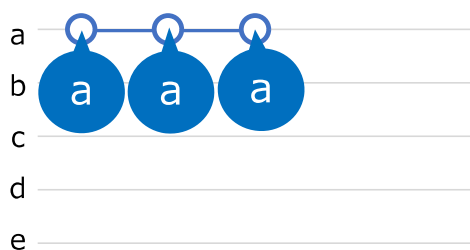
< 政策分野の基本方針 >

京都のまちに息づく伝統文化とそれを支える匠のわざ、人々の生活文化や美意識、さらには地域企業の優れた技術力、大学の集積といった京都の「強み」を生かすとともに、国内外からの起業家の呼び込みやクリエイティブな企業の進出によって、文化と経済の融合、異分野との交流による新たなイノベーションを加速し、世界に羽ばたく企業を生み出す等、Society5.0を先導する産業創造都市をめざす。また、地域コミュニティを支える地域企業の感染症をはじめとするさまざまなリスクへの対応力の強化とともに、担い手の確保や、伝統産業、商店街の振興、京都の豊かな食生活を支える流通体制の整備等によって、持続可能な京都経済の好循環を生み出し、市民生活の豊かさにつなげていく。

客観指標評価

新型コロナウイルス感染症関連の支援制度を活用しながら、戻りつつある需要にうまく対応した事業者が増加したことから、政策の指標である「市内中小企業者の企業経営実績」が前年度以上の実績値となり、引き続きa評価となった。

また、京都府の完全失業率は、経済活動が回復したことによって、ほぼコロナ禍前の状況に改善しているため、a評価となり、全体としてもa評価となった。

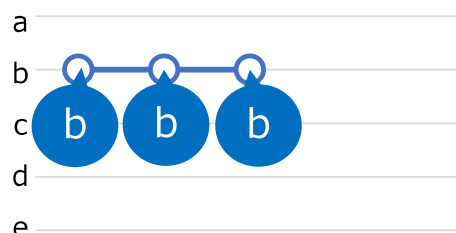


令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響により「京都は活気ある商店が地域のにぎわいを生み出し、快適に買い物ができるまちである」等がc評価になったと考えられるが、「地域とともに発展し、大切にされている企業やお店が沢山ある」等はb評価となっており、コロナ禍で苦しい地域企業が多い中、支援を続けてきたことの成果が、市民の実感にも表れていると考えられる。



令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

企業への支援や事業環境の整備、伝統産業、商店街の振興、流通体制の整備など、効果測定に客観指標の数値が直結するため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



令和3 令和4 令和5 令和6 令和7

客観指標評価はa評価、市民生活実感評価はb評価、総合評価はA評価となった。コロナ禍の影響が残り、原油価格・物価高騰も続く中、あらゆる産業の事業者が、事業を継続・発展できるように、今後も、下支え支援にしっかりと取り組む。

また、ポストコロナ社会に移行し始め、SDGsや脱炭素化を推進するうえでも、中長期的な観点から地域企業の継承・発展を促進するとともに、中央市場の再整備を引き続き着実に進めるなど、市民の皆様へ安全・安心な生鮮食料品等を安定供給できるように努めることで、基本計画の基本方針にある持続可能な京都経済の好循環を生み出し、市民生活の豊かさにつなげていく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市内中小企業者の企業経営実績（％）	39.4	b	a	a	-	-
2	京都府の完全失業率（％）	2.4	-	a	a	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			b	a	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	a	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	a	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	京都には、地域とともに発展し、大切にされている企業やお店が 沢山ある。		b	b	b	-	-
2	多様な人々が京都でいきいきと働いている。		c	c	c	-	-
3	京都では、独自性の高い製品が生み出され、世界で活躍する企業 が多く集まっている。		b	b	b	-	-
4	国内外から起業家など様々な人が集まり、世界に羽ばたく企業が 生まれている。		c	c	c	-	-
5	現代のライフスタイルにも対応した伝統産業製品が生み出され、 次世代を担う、つくり手が育ってきている。		c	c	c	-	-
6	京都は活気ある商店が地域のにぎわいを生み出し、快適に買い物 ができるまちである。		c	c	c	-	-
7	安心・安全で品質の良い食材が流通している。		b	b	b	-	-
8	京の食文化が受け継がれ、発展し続けている。		b	b	b	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			b	b	b	-	-

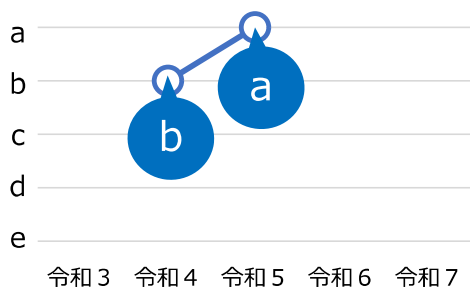
政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	11	8	8	-	-

< 政策分野の基本方針 >

市民生活と観光との調和の下、地域や社会の課題解決に貢献するとともに、感染症や災害などの危機や環境問題への対応力を強化することで持続可能な観光を実現し、市民が温かく観光客を迎え入れ、市民と国内外からの観光客との交流が盛んになり、観光が市民生活の豊かさにつながるまちをめざす。そのために、観光地域づくりの推進を担う京都市DMO はもとより、観光関連業界と連携し、観光課題の解決をはじめ市民生活を最優先に、安心・安全、豊かさの向上、地域文化・コミュニティの継承・発展等につながる観光の京都モデルを全力を挙げて推進する。そして、引き続き観光の質を高めることで、市民、観光客、観光事業者の満足度を向上させるとともに、観光とMICE による経済効果を京都経済全体に波及させ、市民生活の豊かさ、文化の継承・創造につなげ、将来にわたり京都が発展する好循環を構築する。

客観指標評価

政策の指標である「市民生活への観光の影響」がa 評価になったことや、新型コロナウイルス感染症に係るまん延防止等重点措置や入国制限が緩和されたことに伴い「MICE誘致の推進」の施策の指標が両方 a 評価となったこと等から、全体では a 評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

多様なエリアにおける魅力発信や混雑状況・観光快適度に見える化等の観光課題対策に取り組むとともに、京都観光モラルの普及・実践を促進してきた結果、「文化財や街並み、食、買い物等の多様な魅力が高まり、観光客が高い満足を感じている」等がb 評価となったこと等から、全体では b 評価となったと考えられる。

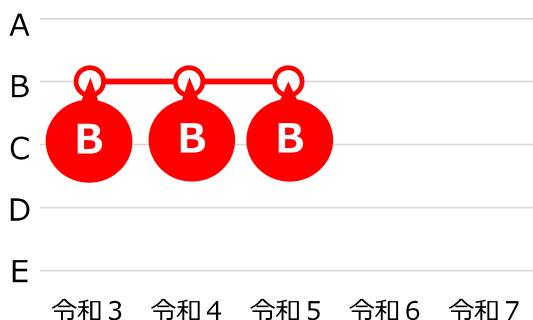


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民生活と観光が調和し、市民が豊かさを感じられる、持続可能な観光を目的とするなど、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価は a 評価となったが、市民生活実感評価が b 評価となったことから、総合評価結果は B 評価となった。

今後、市民の暮らしの豊かさの向上、地域や社会の課題解決、SDGs の達成に貢献し、感染症や災害などの様々な危機や環境問題に対応していく持続可能な観光の実現に向け取り組む。

とりわけ、京都観光の本格的な回復が見込まれる令和5年度は、市民生活と観光の調和を最重要視し、一部観光地の混雑などの観光課題対策の充実・強化を図るとともに、観光関連事業者による地域貢献をはじめ「京都観光行動基準（京都観光モラル）」の普及・実践の促進や、観光に対する市民の共感の輪の拡大を図る。

併せて、京都観光モラルや観光マナーの多言語発信強化など、観光客による市民生活に配慮した行動をより一層促進する形で京都観光の振興を図り、観光がもたらす効果を着実に都市の成長につなげる。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市民生活への観光の影響（％）	47.2	-	b	a	-	-
2	観光消費額単価（円）	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			-	b	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			-	b	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			-	b	a	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	観光は産業振興や雇用拡大、文化や景観の維持・向上、公共交通の充実など、地域に恩恵をもたらしている。	b	c	c	-	-
2	文化財や街並み、食、買い物等の多様な魅力が高まり、観光客が高い満足を感じている。	b	b	b	-	-
3	京都では、観光業に携わる人たちが、やりがいと誇りをもって活躍している。	b	b	b	-	-
4	京都では、災害や感染症などの様々な危機に対応できる安心・安全な観光が実現している。	c	c	c	-	-
5	国際会議、イベント、企業ミーティングや研修旅行等が盛んに開かれ、世界中から多様な人々が集まっている。	c	c	c	-	-
6	-	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		b	b	b	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	18	16	17	-	-

< 政策分野の基本方針 >

京都市の農林業は、市民に食料や木材を供給するとともに、食文化、文化財、伝統芸能や伝統産業等、京都の人々のくらしや文化を支える産業として発展してきた。二酸化炭素吸収源としての機能をはじめ、生物多様性の保全や美しい景観の形成等の多面的な機能を有する農地や森林が今後も適切に保全されるよう、産業としての魅力を高めて担い手を確保し、持続可能な農林業をめざす。さらに、台風や集中豪雨等の自然災害の多発や環境の変化に対して高い対応能力を備えた農林業を推進し、市民生活の安全・安心の確保につなげる。また、京都市の文化芸術の継承・発展を支える京都ならではの農林業の振興を図るとともに、市民が自然とふれあう機会を創出する。

客観指標評価

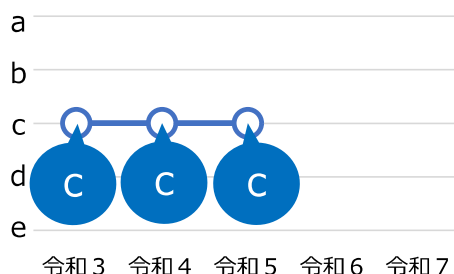
農林業機械の導入促進や農林産物の需要拡大等の取組により、農林業の生産性・収益性が向上するとともに、農業用施設の改修等が進み、自然災害や環境変化への対応能力が向上している。さらに、農林業に関心のある人数も堅調に増加したことから、a 評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

農林業従事者の減少や市民と森林との関係性の希薄化等によって、農林業施策の効果が市民には実感しにくくなっていることから、c 評価となったと考えられる。

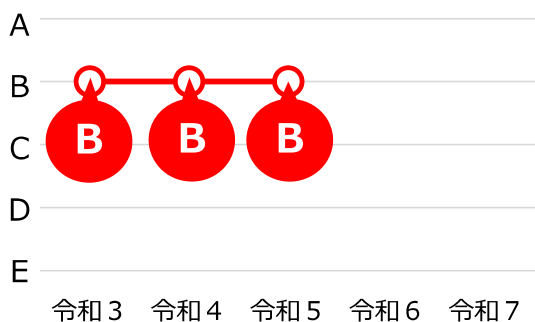


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

農林業関係者を主な対象とする政策であり、市民全体の生活実感には政策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価がa 評価となったが、市民生活実感評価がc 評価となったことから、総合評価結果はB 評価となった。

今後、「農林行政基本方針」及び「四方よし！京都市木の文化・森林活性化SDGs」等に基づき、農林業の生産性・収益性の向上やレジリエンスの向上等に取り組むことで、農林業の成長産業化や農地・森林・河川の多面的機能の発揮に繋がる施策を着実に推進していく。また、農林業施策の効果を市民に実感いただけるよう、市内農林産物の魅力発信、農業体験や森林に触れ合う機会の充実等に取り組む。これらにより、ひとと農地・森林をいかした持続可能な「新しい農林業」の実現を目指す。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	単位面積当たりの農業産出額（万円）	395	a	a	a	-	-
2	林業産出額（百万円）	1,100	a	a	a	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	a	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	a	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	a	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	農林業が魅力的な産業となり、後継者や新たな担い手が育っている。		d	d	d	-	-
2	災害や自然環境の変化、野生鳥獣などによる農林業被害への未然防止対策が進んでいる。		c	c	c	-	-
3	農林業が京の食文化や伝統産業を支え、環境や健康づくりなどの様々な分野にも役立っている。		c	c	c	-	-
4	農地や森林と身近に触れ合える機会が増え、自然が大切にされている。		c	c	c	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			C	C	C	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	19	22	22	-	-

10

大学

< 政策分野の基本方針 >

千年を超えて、都市の機能・文化が継承・発展しつつ、世界にも開かれた稀有な都市「京都」で学ぶ意義を再確認し、その魅力を高めるとともに、国内外に強力に発信することで、留学生、社会人を含む多様な学生を受け入れ、これからの社会の担い手を京都から輩出する。また、京都のすべての大学が個性・特色を生かしながら発展し続けられるよう、大学コンソーシアム京都と連携し、大学の取組を全面的にサポートするとともに、集積された大学の知・学生の力を最大限に生かした、産業・文化の創造・発展、地域の活性化をより一層進める。

客観指標評価

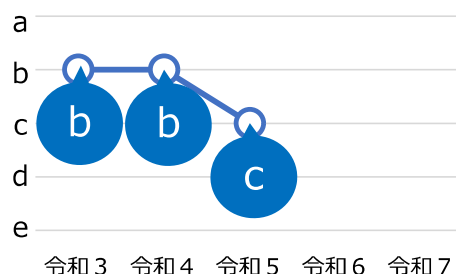
政策の指標である「市内の学生数が全国の学生数に占める割合」について、少子化が進む中であっても現状を維持でき、高評価となったこと、施策の「大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化」などで高評価が得られたことから、a評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響により、留学生を含む学生の行動が制限されており、市民が学生の地域での活動や活躍に触れる機会が減ったことから、「国際社会で活躍する人材が育っていること」や「学生の地域活動による地域の活性化」等を実感しにくくなっており、c評価になったと考えられる。

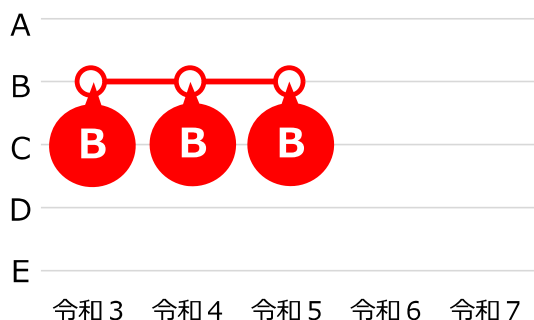


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

学生や市民など誰もが学びたくなる環境の充実や学生の地域活動への参画、大学との連携による地域活性化など、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったため、総合評価結果はB評価となった。引き続き、「大学のまち」「学生のまち」の取組を進めるため、地域と連携したまちづくり活動等を行う学生数の増加、京都で学ぶ魅力発信を通じた国内外からの多様な学生の受け入れを図る。また、京都で学んだ学生が将来も京都に住み、活躍する好循環づくりに取り組む。これらの取組を実施することにより、基本方針に掲げる大学の知・学生の力を最大限に生かした、産業・文化の創造・発展、地域の活性化をより一層進めることにつなげていく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	市内の学生数が全国の学生数に占める割合（％）	5.0	a	a	a	-	-
2	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	a	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			c	b	c	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	a	a	-	-

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	「大学のまち」として学びの環境が充実し、京都ならではの学びと出会うことができる。	b	b	b	-	-
2	世界中から集まる留学生や研究者が京都で学び、国際社会で活躍する人材が育っている。	b	c	c	-	-
3	学生が地域活動などで活躍、成長し、地域を活性化している。	c	c	c	-	-
4	京都で学んだ学生が、市内企業に就職するなど、卒業後も京都で活躍している。	c	c	c	-	-
5	大学の人材や研究成果が市民や企業の成長に役立っている。	b	b	c	-	-
6	「大学のまち」「学生のまち」として国内外から様々な学生が集まっている。	a	b	b	-	-
7	-	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		b	b	c	-	-

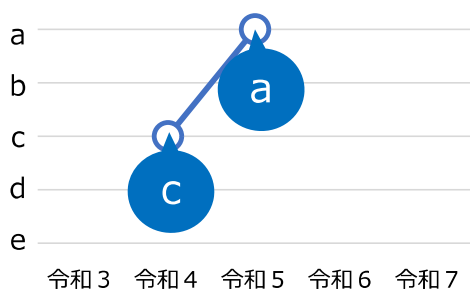
政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	22	20	20	-	-

< 政策分野の基本方針 >

京都が世界に誇る歴史や伝統文化、産業、緑豊かな風土に加え、環境や景観等の先進的な取組など、京都の魅力を広く世界に発信するとともに、世界中から多種多様な人々を積極的に受け入れ、さまざまな交流を通して新しい価値を創造する世界の都市「KYOTO」をめざす。また、あらゆる市民が外国文化への理解を深めることにより、異なる文化的背景や価値観等の多様性が生かされるまちづくりを推進する。

客観指標評価

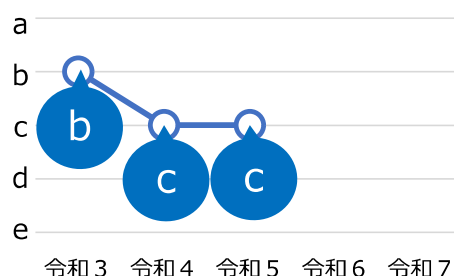
新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る制限の緩和が進んだことにより、政策の指標である「国際会議開催件数」等が大幅に回復するとともに、施策の指標である「高度外国人材の人数」等も目標値を上回ったため、全体としてa評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響により、市民・民間主体の国際交流イベントの規模縮小や中止が相次いだため、異なる文化を互いに理解し合い、文化の多様性に触れる機会が大幅に減少したことから、c評価になったと考えられる。

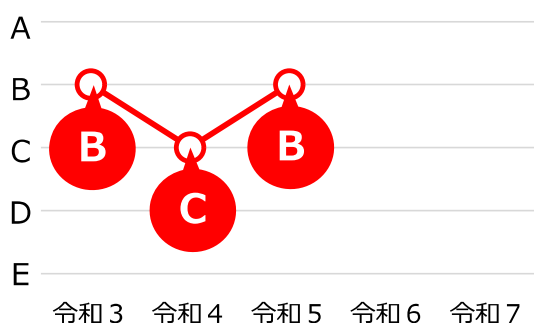


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

市民主体の国際交流や市民の多文化共生への理解など、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったため、総合評価結果はB評価となった。新型コロナウイルス感染症拡大防止に係る制限の緩和により、海外との交流も再開されつつある中で、今後活発な姉妹都市交流等を通じ、市民間の相互交流や相互理解を促す。また、留学生を含む外国籍の方や、外国にルーツを持つ方に、継続して安心・快適に居住し活躍いただくため、働きやすい環境づくりや多言語による情報発信・相談対応など幅広い支援を行うことで、世界の都市「KYOTO」の魅力を、世界に向けて発信する。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	外国籍の住民基本台帳登録者総数（人）	50,294	-	b	a	-	-
2	国際会議開催件数（件）	70	-	e	a	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			-	d	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			-	a	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			-	c	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	京都には、世界から留学、ビジネス等を目的として訪れる人々を引き寄せる魅力がある。		b	b	b	-	-
2	京都は、海外の都市と文化のみならず経済・芸術など様々な分野で活発に交流し、国際社会にも貢献している。		b	c	c	-	-
3	市民、民間主体の国際交流が行われ、様々な世代で外国文化への関心や理解が高まっている。		c	c	c	-	-
4	国籍、民族、文化等が違って互いに理解し合い、文化の多様さを感じられるまちとなっている。		c	c	c	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			b	c	c	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
			26	26	26	-	-

< 政策分野の基本方針 >

妊娠前から子ども・若者までの切れ目ない支援をさらに推進し、京都ならではの市民力・地域力・文化力を結集して市民の生き合う力を高めることで、子ども・若者が将来の展望をもって成長するとともに、子育て家庭をはじめ、結婚・出産・子育ての希望をもつすべての人が幸せを感じ、くらし続けたいと思えるまちを実現する。

客観指標評価

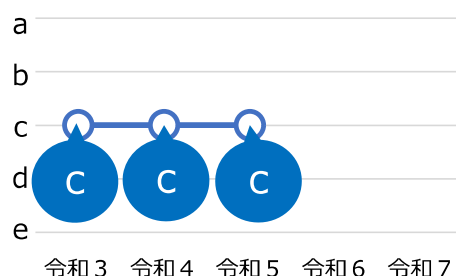
新たな受入枠の確保や関係機関の協力による保育所等及び学童クラブ事業の待機児童数ゼロの達成、妊娠・出産に係る産科医療機関等との密な連携の推進、各局区等が設置する附属機関等への青少年登用の促進により、これらの指標で高評価を得られたこと等から、a 評価になった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、地域との交流事業や子育て支援事業等が制限されたこと等により、子ども・若者や子育て家庭が交流する機会が減少するなど、子ども・若者や子育て家庭がつながりや子育て支援の取組を実感する機会が減っていることから、c 評価になったと考えられる。

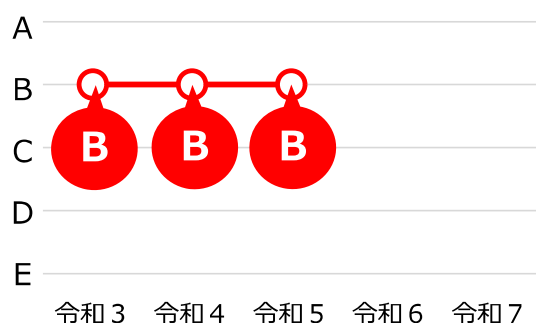


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

子育て世帯を主な対象とする政策であり、市民全体の生活実感には政策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はa 評価となったが、市民生活実感評価がc 評価となったため、総合評価結果はB 評価となった。子ども・若者や子育て家庭を取り巻く様々な社会課題に対応するため、真に支援が必要な家庭へ必要な支援を行き届かせていくとともに、子育て世代全体への支援の拡充に取り組んでいく。

さらに、こうした子育て支援の取組を分かりやすく市民に届くよう、積極的かつ効果的な情報発信に取り組み、子育て家庭をはじめ、結婚・出産・子育ての希望を持つすべての人が魅力を感じ、「京都で子育てがしたい」と思えるまちの実現を目指す。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	妊娠11週以下での妊娠の届出率（％）	95.4	a	a	a	-	-
2	保育所等待機児童数（人）	0	a	a	a	-	-
3	学童クラブ事業待機児童数（人）	0	a	a	a	-	-
4	青少年(13歳～30歳)が参画している附属機関等の割合（％）	53.6	a	a	a	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	a	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	a	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	a	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	子どもが尊重され、希望を持って健やかにたくましく育っている。		c	c	c	-	-
2	若者に様々な可能性が開かれ、自分が希望する将来像に向けて行動している。		c	c	c	-	-
3	子育て家庭がともに学び相談し合うことで、子育ての楽しさや素晴らしさを実感している。		c	c	c	-	-
4	子どもの見守り活動など、身近な地域で子どもとの交流や子育て支援の取組が進んでいる。		b	c	c	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			c	c	c	-	-

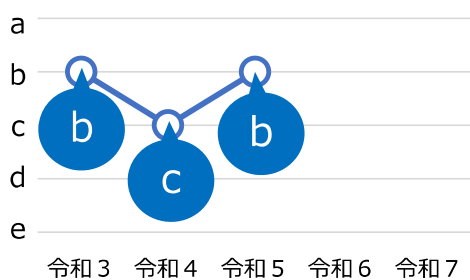
政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	7	11	9	-	-

< 政策分野の基本方針 >

障害のある人が、地域で自立した生活を営み、社会のさまざまな分野の活動に参加できるよう、障害者施策の総合的、分野横断的な展開を図る。これにより、障害のある人もない人も、すべての人が尊重し合い、地域社会のなかで、お互いに認め合い、支え合い、安心してらせるまちづくりを推進していく。

客観指標評価

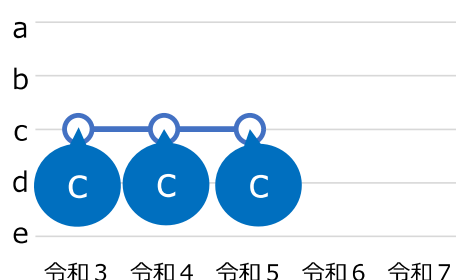
政策の指標である「障害者施設からの地域生活移行人数」が大幅に回復したことや施策の指標である「障害のある方の地域生活への移行に向けたサービス利用（居宅介護、グループホーム等）」が増加したこと等から、b評価となった。



（評価に用いた指標の詳細は次ページ参照）

市民生活実感評価

障害のある人を主な対象とする政策であり、市民全体の生活実感には政策の効果が反映されにくかったため、c評価になったと考えられる。

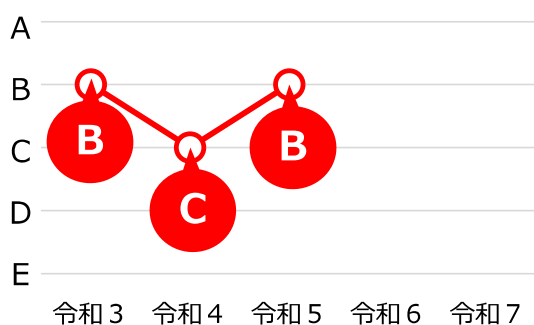


（評価に用いた設問の詳細は次ページ参照）

< 評価の重み付け >

障害のある人を主な対象とする政策であり、市民全体の生活実感には政策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はb評価となり、市民生活実感評価がc評価となったため、総合評価結果はB評価となった。引き続き、分野別計画である「はぐくみ支え合うまち・京都はほえみプラン」に基づき、関係機関や障害者団体等との連携の下、各施策の目標達成に向けて取り組んでいくことで、基本方針にある障害のある人もない人もお互いに認め合い、支え合い、安心してらせるまちづくりの実現を目指していく。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	障害者福祉施設からの地域生活移行人数（人）	20	-	d	a	-	-
2	精神科病院に長期入院している患者数（人）	1,656	-	c	d	-	-
3	福祉施設からの一般就労移行人数（人）	312	-	a	a	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			c	c	b	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			a	c	b	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			b	c	b	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	障害への理解が進み、障害のある人もない人も、認め合い、支え合って安心してくらしている。		C	C	C	-	-
2	障害のある人が住み慣れた地域でくらしやすくなってきている。		C	C	C	-	-
3	障害のある人の就労や社会参加が進んできている。		C	C	C	-	-
4	バリアフリーの建物や、誰もが使いやすいデザインの製品が普及し、くらしやすくなってきている。		C	C	C	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			C	C	C	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	12	15	16	-	-

< 政策分野の基本方針 >

家族形態や雇用形態の変化など、社会経済情勢の変化を背景に、複雑化、多様化する地域の福祉的課題に対して、地域住民が主体となり、地域の関係機関との連携の下、課題を共有し、それぞれの強みを生かしながら解決につなげる協働の取組を推進する。また、地域だけでは対応が困難な複合的な課題を行政や専門支援機関等がしっかりと受け止め、分野横断的に支援を行う。これらの取組を通じて、世代や分野を超えて、すべての人や団体が、地域、暮らし、生きがいをともに作り、高め合うことで、地域住民が安心して生活し続けることのできる地域共生社会の実現をめざす。

客観指標評価

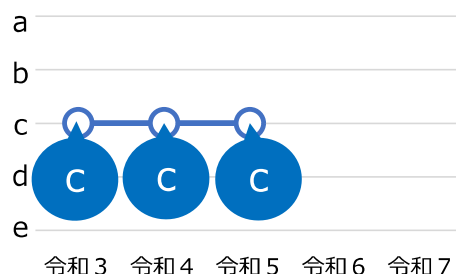
コロナ禍においても地域活動の状況の把握や取組の共有等を行うなど、各区地域福祉推進委員会による取組を行っていること、また、制度の狭間や複合的な課題を抱える世帯に対して、地域あんしん支援員が継続して支援を行い、支援世帯数が目標値に達したこと等から、a評価となった。



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感評価

新型コロナウイルス感染症の影響で地域住民等による活動が困難となる期間が長く続き、地域内で住民同士等の交流機会が減少し、地域のつながりを実感する機会が減っていることから、c評価となったと考えられる。

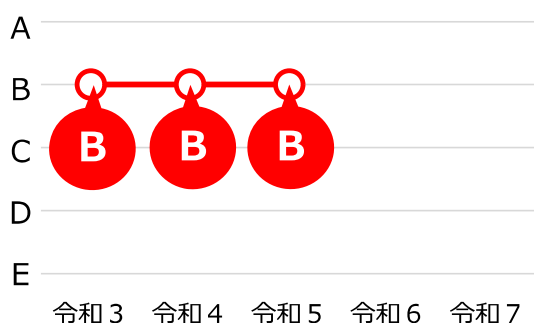


(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

< 評価の重み付け >

地域福祉活動における市民をはじめとする多様な主体の協働や、地域生活における多様な課題への対応など、施策に係る市民の意識や生活実感が重要な分野であることから、市民生活実感評価を重視する。

政策の総合評価



客観指標評価はa評価となったが、市民生活実感評価がc評価となったため、総合評価結果はB評価となった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けた地域福祉活動の今後の方向性を検討しつつ、引き続き「京・地域福祉推進指針」に基づき、区地域福祉推進委員会の取組の充実・強化に取り組み、地域で主体的に取り組まれている活動の把握や共有等を図ることで、地域活動の支援や新たな活動の創出につなげていく。また、複合的な課題を抱える世帯等への支援にあたっては、地域あんしん支援員の取組等により、引き続き行政や専門支援機関等との連携による分野横断的に支援に取り組み、地域住民が安心して生活し続けることのできる地域共生社会の実現につなげる。

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和5年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	区ボランティアセンター相談対応件数（件）	3,857	-	a	a	-	-
2	各区地域福祉推進委員会の活動件数（件）	280	a	a	a	-	-
3	地域あんしん支援員設置事業の支援世帯数（世帯）	136	a	a	a	-	-
4	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-
政策の客観指標評価 平均（①）			a	a	a	-	-
+							
下位施策の客観指標評価 平均（②）			b	b	a	-	-
↓							
政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）			a	a	a	-	-

市民生活実感評価							
市民生活実感調査設問			令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	地域の住民が互いにそれぞれの多様性を認め合い、支え合うことで、安心して過ごせる地域になっている。		c	c	c	-	-
2	様々な団体が地域の活動に参加しており、地域における支え合いの活動が活発になっている。		c	c	c	-	-
3	ごみ屋敷や地域社会からの孤立など、個人が抱える課題を行政や関係機関が受け止め、支援につなげている。		d	c	c	-	-
4	-		-	-	-	-	-
5	-		-	-	-	-	-
6	-		-	-	-	-	-
7	-		-	-	-	-	-
8	-		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価			c	c	c	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	10	9	11	-	-